

説明会で頂いた意見・要望への取り組み状況⑪

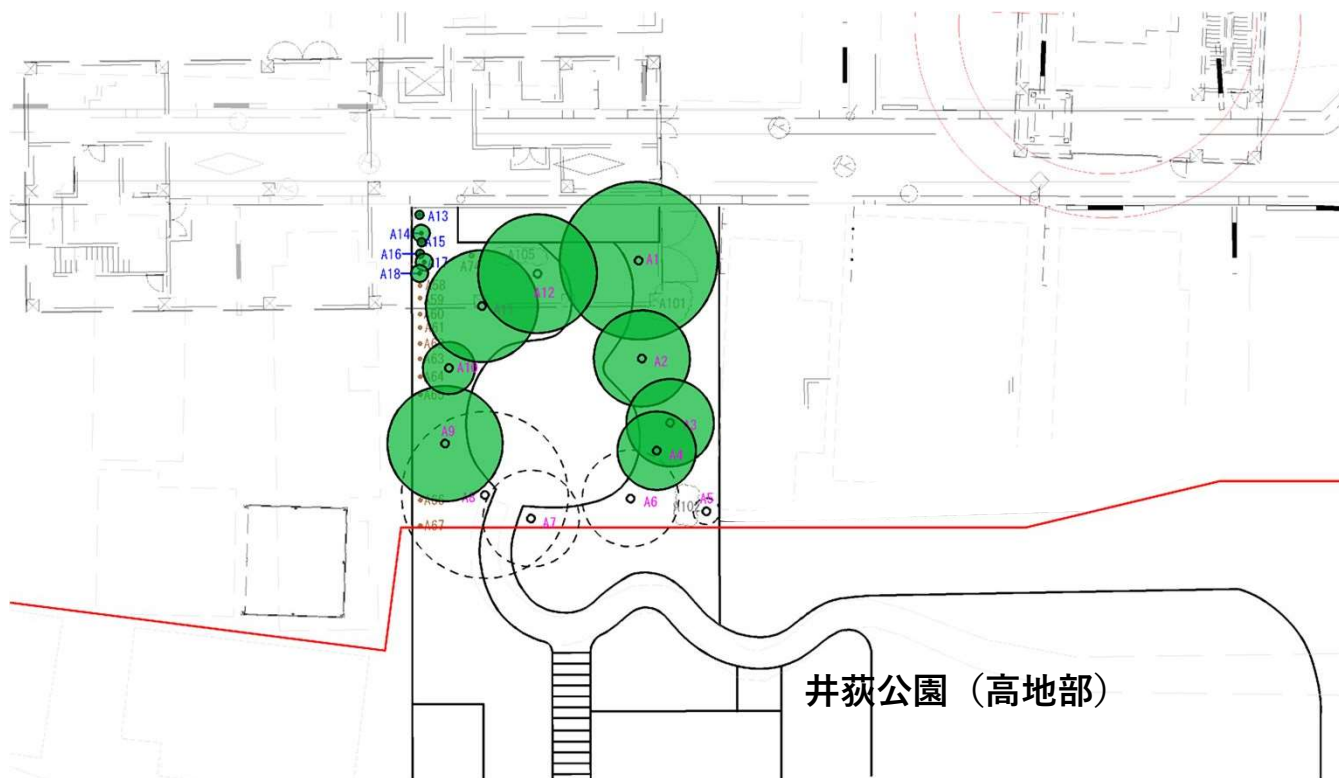
◆ 公園の保全について（井荻公園）

- ・大切な緑豊かな公園を壊さないでほしい。
- ・樹木を切ることはやめてほしい。

対応

工事により支障となる樹木の本数は下図の通りとなっております。
伐採する樹木を極力減らすように、引き続き工事の方法等を検討していきます。

【原寺分橋下流右岸部（井荻公園（低地部））】



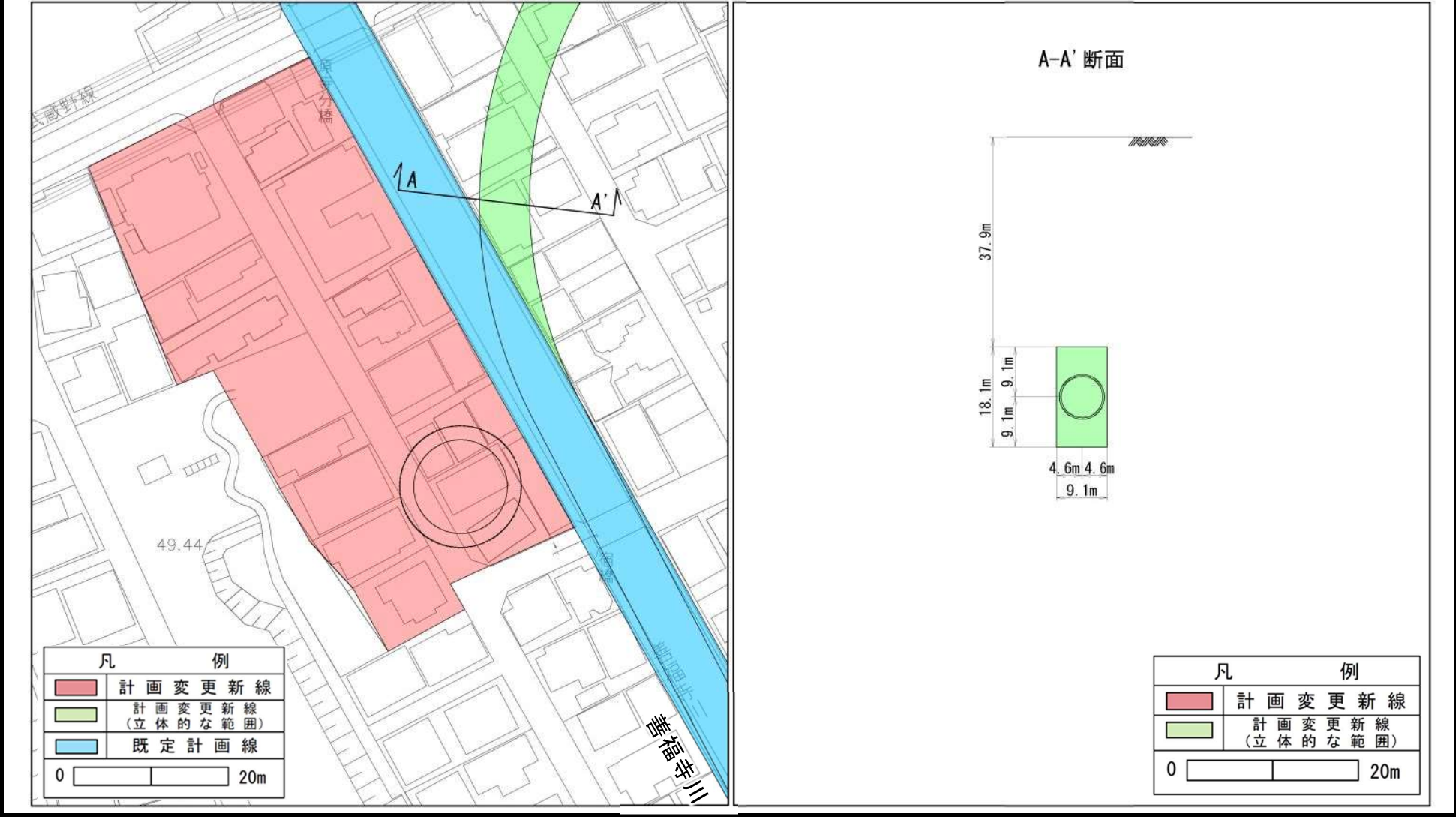
支障 14本
→ ● 移植：14本
● 伐採は無し

※井荻公園内の樹木は、現時点では全て事業用地内に移植する計画としています。



※井荻公園の高地部は工事期間中も公園を利用することができます。
樹木を伐採することはありません。

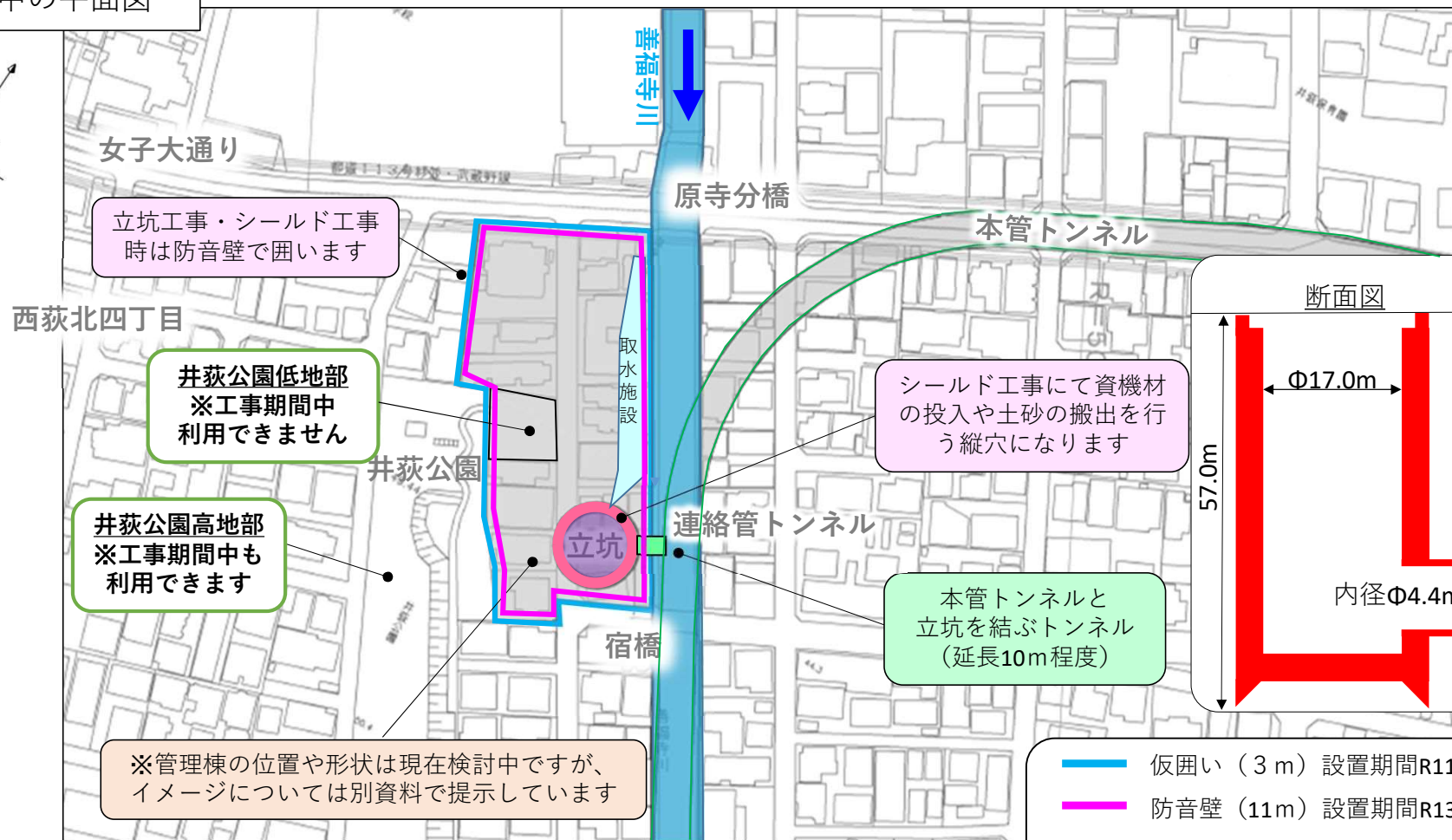
原寺分橋付近のトンネル平面及び断面図



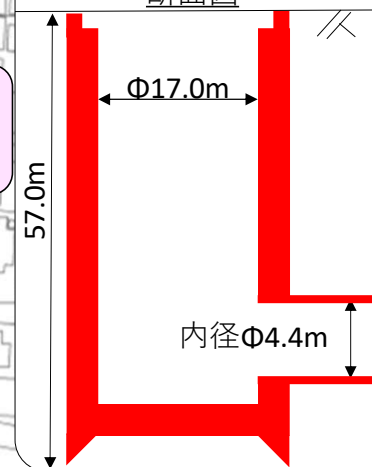
この地図は、国土地理院長の承認（平成24関公第269号）を得て作成した東京都地形図（S=1:2,500）を使用（3都市基交第817号）して作成したものである。無断複製を禁ずる。
（承認番号）4都市基街都278号、令和5年2月15日

原寺分橋下流右岸部の工事について

工事中の平面図



断面図



- 仮囲い（3m）設置期間R11～23年度
- 防音壁（11m）設置期間R13～21年度

※工事の進捗に合わせ工事範囲、囲い位置や高さは変更となります。詳細は現在検討中の為、今後説明します。

工事スケジュール（予定）

年度	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041
	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
原寺分橋下流部					準備		立坑 (ニューマチックケーソン)	連絡管		立坑 (内部整備)		取水施設		管理棟・設備			

原寺分橋下流右岸部の施設配置などについて

■原寺分橋下流右岸部の施設について

【目的】

洪水時には、原寺分橋下流右岸部で効果的に河川水を取水していきます。

河川の水位がある一定以上の水位に達した後、洪水を取水し、調節池内に貯留していきます。河川から取水した洪水を調節池内（地下トンネル内）に導くために**取水施設**等が必要になります。

また、調節池を維持管理していくために、管理棟や機械棟及びゲート棟などの施設が必要となります。

【施設の概要】

取水施設：河川から洪水を取り入れるための施設です。

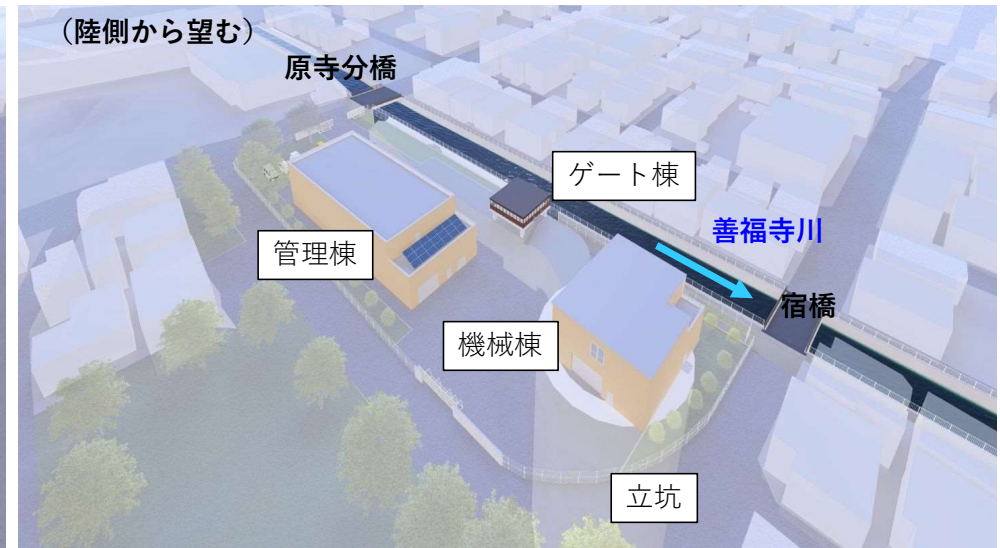
立坑：取水した洪水を調節池内（地下トンネル内）に導くための施設です。また、機械設備や維持管理用の設備を設けます。

管理棟：維持管理のための施設です。具体的には、洪水時の河川水の流入や排水設備等の運転操作などを行うための施設です。

機械棟：立坑の上部に設置する施設です。維持管理車両を地上部から地下40mへ昇降するための施設（ゴンドラ）やその他必要な機械設備を設置します。

ゲート棟：取水施設に設置されるゲート（扉）を開閉及び収納する施設です。

パース図（イメージ）



説明会で頂いた意見・要望への取り組み状況⑱

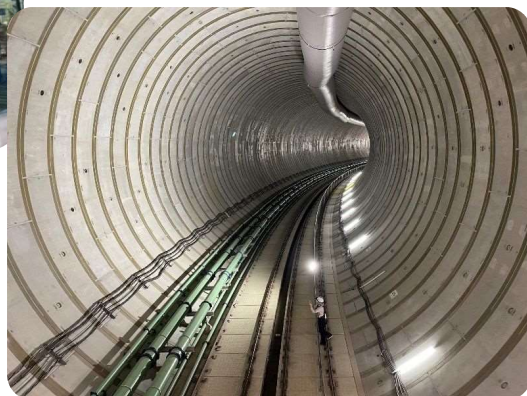
◆ シールド工法について

- ・ シールドマシンの騒音や振動が心配。外環道のような陥没も起きるかもしれない。
- ・ 民有地に近い工事なので、地上への影響を心配している。住民の安全性は？
- ・ 気泡シールド、酸欠空気について説明してほしい。

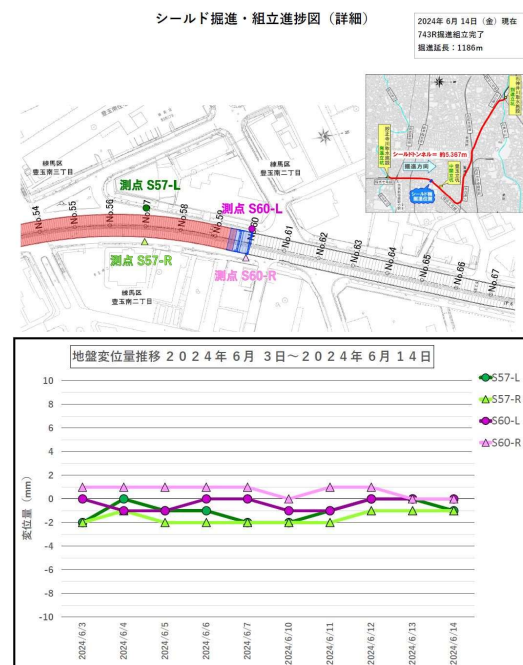
対応

本工事では、地盤条件に適合した泥水式シールド工法で安全・確実に施工していきます。工事中は、地表面の変状などの調査を行い、近隣の皆様へのきめ細やかな情報提供やホームページなどで丁寧に周知を行っていきます。

シールドマシン、トンネル：環状七号線地下広域調節池の例



【地表面変状の情報提供（例）】



出典：環状七号線地下広域調節池（石神井川区間）工事ホームページ

説明会で頂いた意見・要望への取り組み状況⑱

◆ シールド工法について（地質調査）

- ・地盤の調査もなく非常に不安。説明不足。
- ・シールドトンネル施工に伴う地盤沈下の不安を解消してほしい。
- ・ここは地盤が弱いから地盤沈下する可能性がある。

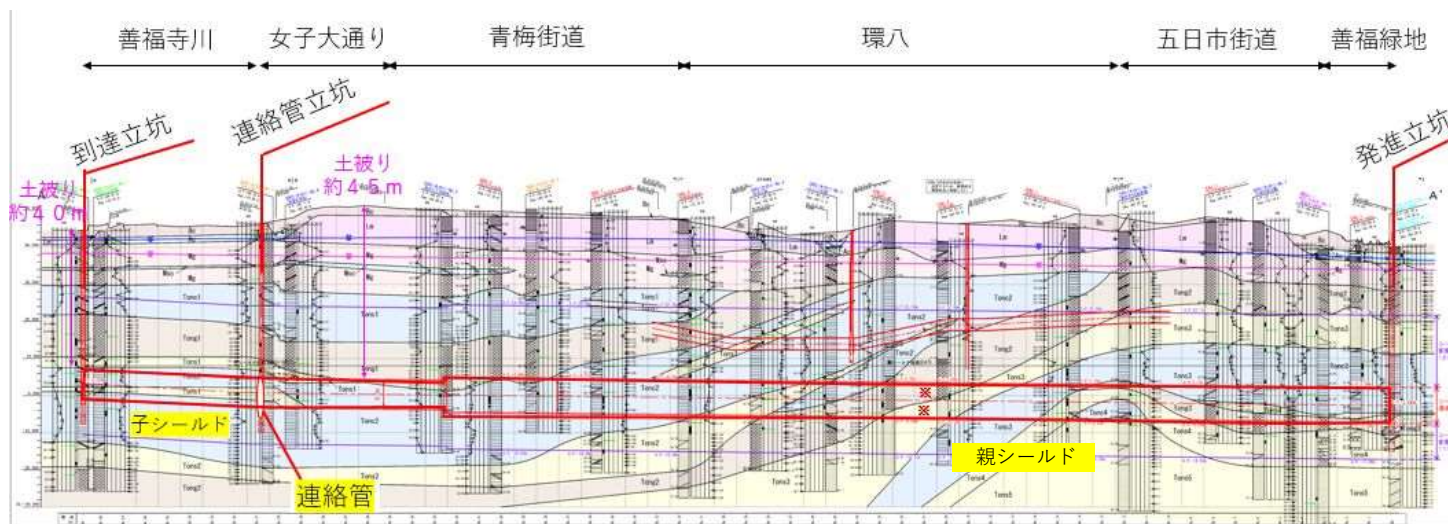
対応

- ・トンネルルート上で200mに1箇所程度ボーリング調査を行い、地盤の状況を把握し、地盤条件に合わせた設計を進めています。
- ・地盤調査では、トンネルルート上で不安定な地盤は確認されていません。
- ・施工中は地表面の変状などの調査を行い、安全な施工をしていきます。

トンネル深さ・地質縦断図

⇒R3～R5年度で地質調査を実施

- ・上から盛土、沖積粘土層、関東ローム、武蔵野礫層、上総層群舎人層で構成
- ・掘削土層は舎人層の粘性土、砂層、礫層で、いずれも硬質（N値粘性土30以上、砂・砂礫50以上）



地 層 名		記 号
盛土埋土層		Bc
沖積層	粘性土層	Ac
関東ローム層	ローム層	Lm
武蔵野礫層	礫質土層	Mg
	砂泥層	Msc
舎人層	粘性土層	Tonc
	礫質土層	Tong
	砂質土層	Tons

トンネルの維持管理 ～河川構造物（地下調節池・分水路）の予防保全計画～

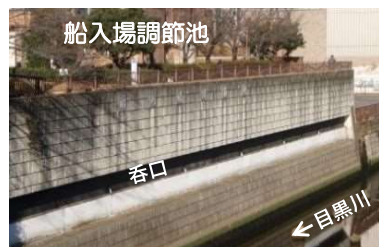
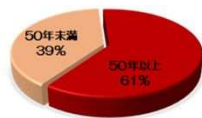
1. 計画の目標

損傷の程度が顕著になる前に適切な対策を行うことで、
河川構造物(地下調節池・分水路)を**今後100年間造り替えることなく健全な状態に保つ**

2. 施設の現状

○懸念されている施設の経年劣化【30年後の状況（令和33年度）】

30年後、地下調節池・分水路
（全21施設）の内、約61%が完
成から50年を経過する



目黒区 1990年完成



文京区 1977年完成

3. 健全度調査の内容

平成16年～令和2年度の中で、計4回の健全度調査を実施
4回目となる調査においては、従来と同様の手法に加え、**新技術**を適用

○外観変状調査（**走行型画像計測**）

従来の目視点検に替わり、車両上にカメラを設置し走行しながら連
続的に画像取得することで、施設外観の状況を調査する技術



↑ 健全度調査実施状況（目視）



↑ 健全度調査実施状況
（走行型画像計測）

（神田川・環状七号線地下調節池の例）

4. 取組内容

【予防保全型管理】

施設の損傷状況を調査し、その劣化を予測するこ
とで、**損傷が顕著になる前に各種対策を実施**

○鉄筋腐食対策

物理調査の結果、塩分等により
鉄筋腐食の恐れのある箇所を補修

塩害対策事例



表面被覆工法例

○コンクリートの損傷対策

外観変状調査で発見した損傷
の程度が顕著になる前に補修

ひび割れ対策事例



注入工法例

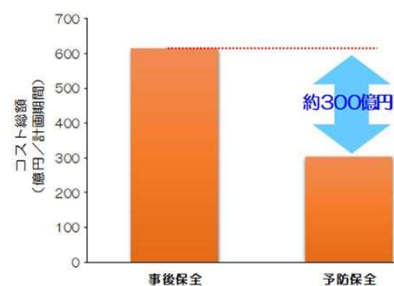
5. 事業効果(100年間)

○安全・安心の確保

機能を確実に発揮させ、水害から都
民の生命・財産を守る

○コスト縮減効果：約300億円
（約51%）

予防保全型管理と、それを行わない
場合の100ヶ年分のコストを比較



6. 実施計画（10年間）

○令和3年度～令和12年度の10年間の事業規模

対象施設数：14施設 事業費：約30億円

7. 今後の方針

原則、5年ごとに定期点検を実施し、最新の結果を踏
まえて本計画を見直すこととする